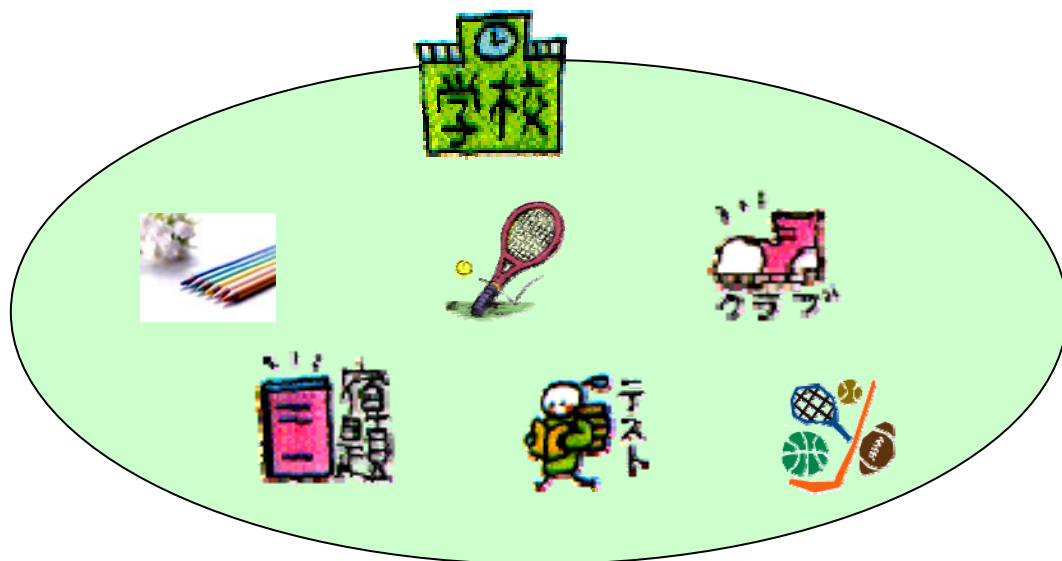


やる気を起こさせるには

——職員の連携をとおして——

太田市立商業高等学校 鈴木 宏 和

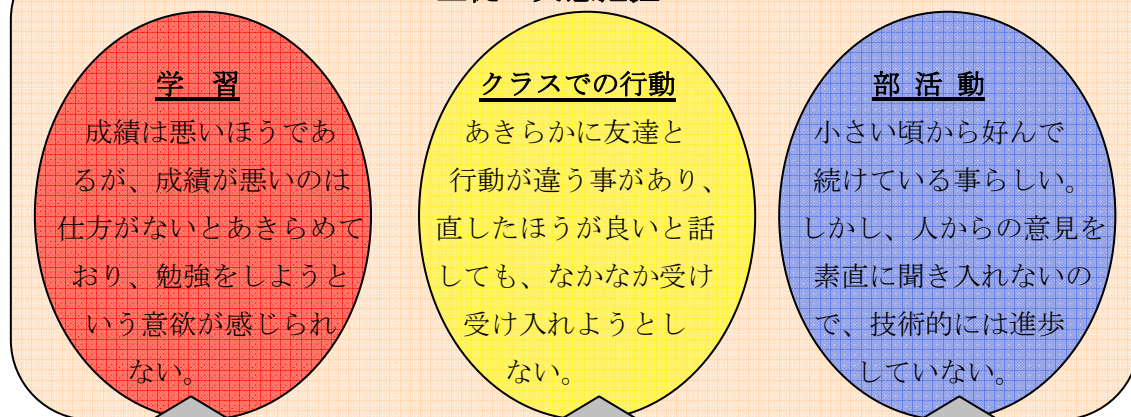
最近の生徒を見ていると自分勝手（自分さえ良ければ人はどうでも良い）で、何をするのも適当で真剣に取り組む事ができない生徒が多く見受けられる。そこで、本人が最も興味を持っていると思われる事（教科や部活など）を探し、その事を中心に担任・教科担当・部顧問で意見交換を行いながら指導し、本人のやる気を起こさせる事を目標とした。



この子は学校の中で、どんな事に一番興味を持っているのだろうか？



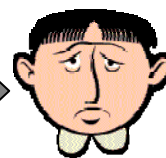
生徒の実態把握



指導

指導

指導



連携

連携

教科担当

担任

部顧問

連携

教科担当は、生徒の勉強に対する「あきらめ」の気持ちを変え、前向きに変えるため、理解していない所を補習などを行うことによって時間をかければ理解できるようになる事を教える。また、部顧問や担任にも、それぞれの指導に生かせるよう生徒の勉強に対する最初の考え方や、変化が見られたら報告する。

担任は、生徒の間違った考え方について、なぜそういう考え方をするのかよく聞く。その後、考え方がおかしかったら、おかしいという事を話す。もし、納得しなかったら無理に納得させず、少し時間をおいて、後日納得するまで話して聞かせる。また、生徒の変わったところが見られたら、教科担当や部顧問にも報告し、授業や部活ではどうなのか確認する。

部顧問は、今までやる気を起こさなかった生徒にどうしたら、やる気を起こすようになるかを考える。今までどおりの指導では変化が難しいと考えられるので、教科担当や担任から、普段の様子などを聞き、指導方法を工夫し、やる気を起こさせるようにする。また、生徒に変化が見られたら、教科担当や担任にも報告し、授業や部活ではどうなのか確認する。